

ミヤコカブリダニ剤 ミヤコスター	取扱メーカー： 協友アグリ，住化テクノ 原体メーカー： 住化テクノ
成分： ミヤコカブリダニ……………2,000頭／300ml	性状： 淡褐色粒状 毒性： —— 消防法： ——

【品目特性】……………

●本剤はハダニ類を捕食するミヤコカブリダニを含有する製剤である。

●いちごなど野菜類（施設栽培）で問題となるハダニ類の卵～成虫を捕食する有力な土着天敵である。

●薬剤抵抗性の発達したハダニ類にも効果を発揮する。

●ハダニ類以外に花粉などを餌として生活し、ハダニ類を待ち伏せする。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●ミヤコカブリダニの容器内生存日数は短いので、入手後直ちに使用し、使いきる。

●容器中でミヤコカブリダニが偏在していることがあるので、使用の際は容器をゆっくり回転させて均一に混在させたのち、所定量を放飼する。

●放飼前にハダニ類の密度を極力落とすため、本剤に影響の少ない薬剤や気門封鎖剤との体系使用を行う。

●春先は気温が上昇し、ハダニ類の増殖に好適な環境となるため、状況に応じて本剤に影響の少ない薬剤を散布する。

【薬効・薬害等の注意】……………

●ハダニ類の生育密度が高くなってからの放飼は十分な効果が得られないことがあるため、ハダニ類がまだ低密度で散見され始めた時に最初の放飼をする。

●天敵としてミヤコカブリダニが有効な密度を保つため、ハダニ類の発生初期より1～2週間間隔で連続放飼をすることが望ましい。

●ミヤコカブリダニの活動に影響を及ぼすおそれがあるので、本剤の放飼前後の薬剤散布はさける。

●共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

●アレルギー体質の人は取り扱いに十分注意する。

【適用と使用法】……………

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミヤコカブリダニを含む農薬の総使用回数
野菜類 (施設栽培、 但し、いちごを除く)	ハダニ類	2000頭/10a	発生 初期	—	放飼	—
いちご（露地栽培）		0.3～1頭/株				
いちご（施設栽培）		2000～6000頭/10a				
花き類・観葉植物 (施設栽培)		6000頭/10a				